

テーマ 『多面的・多角的に捉える力を育成する』

1 テーマ設定の理由

国際化社会、少子高齢化社会、情報化社会など刻々と変化する現代社会はさまざまなことばで表現されている。この「変化の激しい社会」「先行き不透明な社会」現代社会の中で、学校教育とりわけ中等教育には、学び続ける力（生涯学習力や自己学習力）の育成が求められている。

社会科は本来、一人ひとりの社会生活に根ざした実践的な教科であり、そこでの学習成果は社会生活の中で活用され、磨かれ育っていくことが期待される教科である。また、これを具現化して実践していくことが「生きる力」を育てる社会科であり、冒頭に述べたような時代であるからこそ学び続ける力の育成が期待され望まれる教科である。

この学び続けていく過程の中で、生徒が身につけて欲しい力を「社会的事象を諸資料に基づいて、多面的・多角的に考察し、公正に判断し、表現できる力」と考えた。ここでいう、「多面的」とは、1つの社会的事象においても様々な価値観・歴史観などがあり、その社会的事象の影響や背景などの側面が多様にあることを指している。また、「多角的」とは、ある社会的事象がそれぞれの立場によって様々なとらえかたをすることができるため、その事象のとらえ方が多様であることを指している。

つまり、このような1つの社会的事象に関する資料を公正に判断しながら、様々な側面をその事象が含んでいることを理解し、それぞれの立場によってその判断が異なることを総合的に判断し、客観的に共生的な視野にたって物事を考察する力、「多面的」「多角的」に考える力を身につけることが、これからの生きる力に繋がると考えて、今回のテーマを設定している。

2 本年度の研究について

昨年度より本校の研究主題を『豊かな学びで個を育む』として、確実に身につけたい知識・技能を明確にし、「習得・探究」の一連の学習を通して、現代社会をよりよく生きる生徒を育成することを目指している。そこで、本校社会科では、社会的事象についての知識・技能を、課題解決的な学習の中で考察を繰り返しながら学習を進めることにより、様々な要因によって成り立ち、相互が関連し合って絶えず変化していることを理解し、公正に判断できる資質を養うことができると考えた。

授業では、実際にあった社会的事象を提示し、その文章に載せられていない詳細な部分を生徒と教師が解明しながら授業を進めることにより、その側面が明らかになっていくように進めることとした。その際、必要な情報は生徒の興味関心を促しながら、提供することとし、生徒を惹きつけながらさまざまな側面を見出せるように工夫をしている。

さらに、その側面からみえるさまざまな課題や疑問を、各学級に設定されている学習班を効果的に活用することにより、多様な考え方を生徒は身につけることになり、そこへ社会的事象に対する客観的な思考を生徒に与えることにより、生徒は、立場によって物の見方考え方が変化を知ることができると思った。このような場面を授業の中で多く設定することにより、生徒はこの地球を構成する様々な立場の考えや背景を考えられるようになるとして、研究を進めている。

また、本年度より実施されている45分7校時の実施により、増加したコマ数の活用の仕方を工夫し、発展的な教材の導入や基礎基本の理解や知識の獲得のための丁寧な指導にあてている。これにより、生徒の社会科への興味関心を高め、幅広い考え方や知識の獲得に繋がると考えている。

3 成果と課題

多面的・多角的にとらえる力を育成するために今年度行ってきたカリキュラムの中で、生徒は社会的事象が様々な側面を含んでいることに気づき、その社会的事象の構造や背景に対する興味関心が高まることとなった。学習意欲の向上は、基礎的・基本的な知識の定着へと結びつき、授業態度の向上とともに、社会的事象の持つ様々な側面や背景に関する疑問や課題に関する質問を行なうようになった。ここで、ペア学習や班学習など生徒同士で疑問や意見を交換させることにより、同じ学習をしていても、感じ方の違

いや様々な意見をシェアリングすることによって学習の幅が広まることとなった。この段階で、それぞれの立場によってその判断が異なることに気付き、学習の中で客観的に社会的事象を考察する共生的な視野を身につける生徒もいた。つまり、物事を多角的に考察する力の育成へと至り、「多面的」「多角的」に考える力の育成が、豊かな学びを促進することとなった。

この「多面的」「多角的」に考える力の育成により、現代日本が抱える諸問題に対する考察力を、一国民としての視点と、市政者としての視点の両面から発揮できるようになり、現在の自己に集中しがちな中学生の視線を、将来の自己と国家や地球市民として平和共存を目指す公民的資質を養うことへと繋がった。

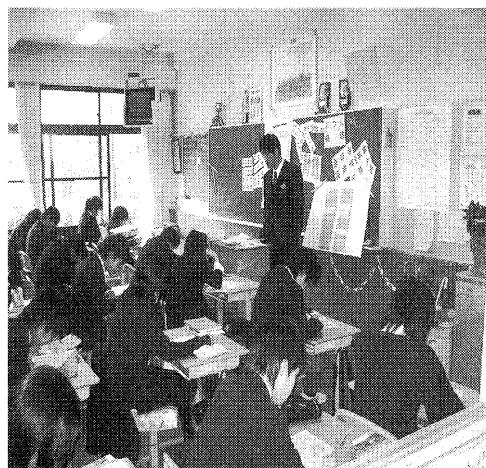
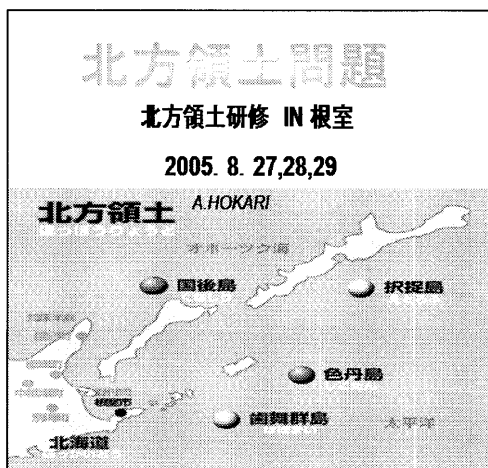
以上のように、様々な社会的事象に興味関心を抱き、その背景を知る喜び、発見する喜び、新たな考えに触れる喜びを感じる生徒がいる一方で、新たな視点を得られない生徒は、思考をめぐらすことを止めてしまい、答えを求めて暗記するという受身の姿勢になってしまう生徒もいた。この興味関心や思考力の弱い生徒でも、新たな事実や考え方に気付くためのヒントや学習方法はまだ現段階では確立できていない。また、社会的事象への興味関心が、非常に高くなればなるほど膨大化する情報を整理するのは大変であり、生徒はかえって混乱するということもあった。

このことから、学習過程での情報収集、情報分析、考察、交流、振り返りの一連の流れの中で、より効果的な班学習のあり方や、学習意欲の強弱の差がある中での教師の発問内容やその方法を開発していくことが必要であると考えた。



国債増加原因【財務省発表】

- ✓90年代の不景気による税収減
- ✓減税処置による税収減
- ✓90年代の公共事業のための国債増
- ✓予想以上の高齢化による社会保障費の増大



神戸市小学生殺害事件 1997年 6月28日

当時中学3年生(14歳)が小学生を殺害、逮捕された。4日後、実名はないものの、加害少年の顔写真・所属クラブ・家族構成と父親の職業名が写真週刊誌「FOCUS」に掲載された。

1968年10月5日夜、栃木県で殺人事件が起きた。20年間にわたり暴力をふるってきた酒飲みの父親を、娘が我慢しきれず絞殺してしまったのである。

刑法第199条 人を殺したる者は死刑又は無期もしくは3年以上の懲役に処す。

刑法第200条 自己または配偶者の直系尊属を殺したる者は、死刑又は無期懲役に処す。

実践1 必修教科1年生

授業者 松坂真弓

① 題材 身近な地域の調査

② 題材について

前期の地理学習を通じて、生徒は地球のようすや世界の国々について理解を深めることができた。昔に比べテレビやインターネット等の普及で多少なりとも海外の情報は入手しやすくなったものの、やはり世界の国々は、多数の生徒にとって自分たちの生活からは多くは遠い存在であり、学習についても苦手意識を感じている生徒が少なくない。

この単元では、地形図の読み方、統計資料の収集・活用方法など作業的な内容も多く、技術的な力を身につけさせることをねらいの一つとしている。また、身近な地域は、自分たちの生活と密着した地域であり、山や川といった自然の状態や道路・鉄道など交通機関の状況等、生徒が調査活動を行うにあたりイメージしやすい点が多い。「何がどこにあるか」「どう変わってきたのか」「これからどうなるのか」など、毎日見慣れている地域ではあるが、視点を変えて見ることによって、その地域を見直し、特色と課題を発見することは地域に対する新しい見方・愛着を育てることにもつながると考える。

生徒にとって身近な地域でみられる現象は、日本の特色のひとつである。身近な地域が抱える課題は、日本が抱える課題のひとつである。しかし、あまりにも身近であるために生徒はそのことを意識していない。そのため、身近な地域を通じて調査を行なうことは、自分の力で地域的特色をとらえる調べ方、学び方を身につけるだけでなく、他地域を調査する基礎的な視点を身につけることができる。身近な地域に目を向けることにより、地域社会の中で生活をしている自分に気づき、地域に対する新しい見方、考え方を培うだけでなく、日本の抱える課題を考える視点を育てることにもつながる。

③ 学習目標と評価規準

学習の目標 評価規準	学習の目標
関心・意欲・態度	地図や資料などから必要な情報を収集・活用する技能を身につけるとともに、身近な地域に関心を持ち、地域の特色や課題について考える。
思考・判断	地図・資料から得られる情報から、歴史的な背景、産業、他地域との関係など、身近な地域への関心が高まっている。身近な地域の変化に関心をもち、地域の発展について考えようとしている。
技能・表現	身近な地域の地理的事象から課題を見出し、それを環境条件や人々の営みなどと関連付けてさまざまな面から考えるとともに、市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法を考えている。
知識・理解	身近な地域に関する調査、地図や統計、その他の資料の収集を行い、学習に役立つ情報を適切に選んで活用するとともに、身近な地域の特色を追究し、考察した結果をまとめることができる。
知識・理解	身近な地域の特色やその特色をとらえる視点や方法を理解し、その知識を身につけている。

④ 学習計画 11時間（◎は本時で7時間目）

学習過程	学習の中心	教師の働きかけと学びのサイクルについて	観 点
地形図の見方 （2時間）	地形図のきまり	既習の知識の復習と地形図の決まりについて理解させる。地図記号、縮尺や等高線の見方など、技術的な力を身につけさせる。『習得』	【技・表】 【知・理】
地形図を使って調べる（2時間）	主題図の作成と読み取り	地域の主題図を作成し、地域の特色を読みとらせる。『習得』・『探究』	【技・表】 【思・判】 【知・理】

統計・資料で調べる（２時間）	統計資料のグラフ化と読み取り	地域の統計資料からグラフを作成させる。表やグラフを作成させ、資料から見た地域の特色を見出させる。 『習得』・『探究』	【技・表】 【思・判】
地域の調査（２時間） 本時（１時間目）	地域の変化の調査	景観写真や新旧の地形図、統計資料などから地域の現状を把握し、地域の課題を考えさせる。 『探究』	【技・表】 【思・判】
これからの地域を考える（３時間）	地域の現状を理解し今後を考える	地域の特色や現状をまとめ、今後の地域のあり方を考えることを通して、都市化、過疎化、高齢化等の社会的な現象について考えさせる。 『探究』	【関心】 【思・判】

⑤ 本時の目標

- ・地図・資料から得られる情報から、歴史的な背景、産業、他地域との関係など、身近な地域への関心をもって考えることができる。
- ・資料を活用して、和歌山市の変化と課題を考えることができる。

⑥ 学習の展開

学 習 活 動	教 師 の 支 援	備 考
景観写真から地形図を読みとる。	和歌山市内の各場所の景観写真を見て、地形図から場所を読みとらせる。	地形図、景観写真
和歌山市の変化について学習する。 新旧の地形図の比較をし、変化のようすについて考える。	和歌山市の変化を新旧の地形図を比較することによって考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・道路、鉄道、田畑、住宅地などポイントになるような視点を必要に応じて生徒に示すものとする。 ・細かい情報を与えすぎると混乱するため、大まかな変化を発見させるようにする。 ・必要に応じて古い地図に道路など新しく加わったものなどを書き加えさせ、視覚的に変化が理解しやすいようにさせる。ぶらくり丁のようすとその原因について考えさせる。 ・資料から読みとった内容、地形図から読みとった内容から和歌山市の変化を考えさせる。 ・必要に応じて個人学習とグループ学習を行なう。 	新旧の和歌山市の地形図 1960年と現在の地形図
ぶらくり丁の写真を見て、和歌山市の変化について考える。 資料と地形図の読み取り結果から和歌山市の変化を考える。	ぶらくり丁のようすとその原因について考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・資料から読みとった内容、地形図から読みとった内容から和歌山市の変化を考えさせる。 ・必要に応じて個人学習とグループ学習を行なう。 	資料 <ul style="list-style-type: none"> ・和歌山市の人口推移 ・和歌山県の自動車保有数 ・和歌山市工業製品出荷額 ・和歌山市商店規模・店舗数の推移
調査から、地域の変化と課題を考える。	調査から、地域の変化と課題を考えさせる。	

⑦ 結果と考察

この単位では、作業的な内容も多く、技術的な力を身につけさせること、また、今後の都道府県や国別の学習を考え、調べ方・考え方を学習する単位でもあり、その基礎的な能力を獲得させることがこの単位の大きなねらいのひとつとなっている。しかし、身近な地域の学習にあたり、地域を多面的・多角的に見ることにより、和歌山市に対するさまざまな面を知ることだけでなく、自分たちの住む大切なふるさととしての愛着をも感じさせられるような単位としたいと考えた。そのため、和歌山市のさまざまな情報を与え、その情報の読み取りを行なうとともにその考察を行なうこととした。

授業では、新旧の和歌山市の地形図から和歌山市の変化についての読み取りを行なった後、ぶらくり丁の昔（1960年代）と現在の写真を見せた。ぶらくり丁周辺は和歌山市を代表する商店街であり、和歌山市の発展とともに賑わいをみせていた地域である。人々の生活の変化とともに住宅地が広がり、大規模店舗が郊外に建てられる中で、次々と中心部の大型店舗が閉店し、商店街も人通りが少なくなり、現在の状況に至っている。以上の点から、和歌山市の都市化を考える際にぶらくり丁はさまざまな面から和歌山市を考えることのできる教材であると考えられる。そのため、今回の授業ではぶらくり丁をもとに、さまざまな統計資料と地形図から和歌山市の中心部の衰退と住宅地の広がりについて理由を考えさせることで和歌山市がこの約40年間にどのような変化をしてきたか、また、現在の和歌山市の状況と今後の和歌山市について考察させることとした。

現在のぶらくり丁周辺が昔の和歌山市を代表する繁華街であったことを知らず、往時の写真を見て驚く生徒もいた。個々の資料の読み取りとグループでの考察の中で和歌山市中心部の現状に至った原因を、社会・経済や人々の生活の変化、車社会の到来と結びつけて考えることができていた。

その後の授業において、和歌山市の現状を把握し、今後の和歌山市を予想し、和歌山市を発展させるための方策について考えさせた。これら一連の授業を通じて、個々で資料を読みとり視点を変えて身近な地域をとらえること、他者との交流と考察を通して自分が気づかなかった視点や新たに発見した視点で和歌山市を見ることができたようである。また、地域の一員としての自分を発見することにもつながったと思われる。それによって、今まで知らなかった和歌山市を見出し、ふるさとの今後についても前向きに考えることができたようである。しかしながら、個々の資料の考察する力がグループでの考察結果を左右することを考えれば、個々の力を向上させることが必要不可欠であり、効果的な授業展開のためには資料の精選が必要であると考えられる。

社会科ワークシート 地域の変化を考える

- 昔の地図〔1960年〕の今の地図（平成13年）と比較して、土地の利用の仕方などで気づいたことを書きましよう。

和歌山市は和歌山県を活性化させるための中心部だと考えられる。
昔によく作られていた水田や畑が、つわさか住宅地に変わられ、住宅地が増え、
遠くへの移動のために自動車を使う人が増えてきている。

平成13年と1960年の土地利用図を比べると、1960年に田畑だった場所が住宅地、
住宅みじゅう地となっている。とくに、1960年から年々人口が増加している、楠見・木本
・有功ではほとんど水田だったのに、今では、9割ほど住宅地となっている。

- ぶらくり丁が今のようになったのはどうしてだと思いますか？今までの資料なども利用して考えましよう。

和歌山市の人口の推移を見ると、本町の人口が減っているから。

他の店が増えた。←車がふえたり、店が増えたから。人口が減っている、
駐車場がない。（ぶらくり丁に）

●和歌山市の変化と課題について考えよう。

和歌山市の工業の事業所数と商店数はどちらも年々減少している。
このままでは働く場所がなくなってしまう。
工業の事業所数も商店数も減っているのに、働く場所がなくなってしまう。
そこで、たくさんの方が働ける大きな工業や商店、会社といったものがあれば、働くことができる人が増え、そこから働きに他県などから来た人で人口も増えるでしょう。和歌山市には「これ!!!」といった会社や工業や商店がありません。事業所数も商店数も減っているのに、今和歌山市に働きに来ている人、働いている人が他の県に働きに行ってしまうと人口も減ってしまうので、私は和歌山市の工業や商店を発展させたいです。まず、たくさんの方が働けるような大きな工業や産業を作りたいです。

社会科ワークシート 和歌山市のこれからを考えよう

これからの和歌山市と、そこから考えた和歌山市の発展のためのアイデアとそのアイデアの理由と方法について

今の状況は、少子化が進み、高齢者も増えて人口ピラミッドがだんだんつりがね型になってきているので、生産年齢人口を増やし、和歌山市を栄えさせたい。
まず、子供を産みやすい環境をつくる。そこで、意見は子供を産みやすい子供は成長しやすいし、ママさんなどから来る。
1. 産科、小児科の医師を減らさないで受け入れを減らさないようにする
2. 産科生が産後にも士会に入りやすい制度をつくる
3. 保育園などの充実
4. 各士会士会として一人は、母、教師、子育て支援の出来る体制をとる

和歌山市の工業の事業所数と商店数はどちらも年々減少している。このままでは働く場所がなくなってしまう。
工業の事業所数も商店数も減っているのに、働く場所がなくなってしまう。そこで、たくさんの方が働ける大きな工業や商店、会社といったものがあれば、働くことができる人が増え、そこから働きに他県などから来た人で人口も増えるでしょう。
和歌山市には「これ!!!」といった会社や工業や商店がありません。事業所数も商店数も減っているのに、今和歌山市に働きに来ている人、働いている人が他の県に働きに行ってしまうと人口も減ってしまうので、私は和歌山市の工業や商店を発展させたいです。まず、たくさんの方が働けるような大きな工業や産業を作りたいです。

これからの和歌山市はもと他の県に和歌山市の有名な戸所やはこの様な物でもいいていいて
名所、旧跡が多いから、川、五十万石だからもって意見、光客が来たらええ様なコマーシャルが必要だと思ふ(市の観光課に言いたい) 働ける見せ場も出来て地域の活性化もつながると思ふ。
京都や奈良又は飛騨や高山の意見、光客でも見かけると言える言えないの街並や土産物の売店等が出来ればいい江戸時代のお店を思い出す言える言えないの店や海産物の器、問屋や和服の小物店が出来ればいいと思ふ。
城の近人が無理ならば、例えば、ブラクリを上記の様な街並にするとか

① 題材 わたしたちの暮らしと経済

② 題材について

本時は、財政の状況から、日本国家の現状と将来を考えるという非常に重要な時間である。財政の内容からは、その国の抱える問題や方向性が読み取ることができ、財政状況の変遷からも、多額の国債費、税収の減少や社会保障費の増加など、経済や人口などの日本が抱える国家的課題が明確になってくる。

このことから、本時は、財政の歳入・歳出項目など基礎的な部分をおさえるとともに、その財政の実情から見えてくる日本が国家として抱えるさまざまな問題を考えることができるよい機会である。

そのためには、歳入と歳出を生徒が自分で考えることにより、様々な疑問にぶつかり、自ら学ぶ良い機会となるように指導したい。この作業により、各歳出項目の内容や税の意義なども明確になり、自分たちが住む国家のあり方について、現状から将来像を導きだすとともに、これからの国際社会や地球のあり方、社会的な思考能力を養うことができるように心がけたい。

③ 学習目標と評価基準

学習の目標 評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 日本経済の諸課題について、基礎の定着を図るとともに、多面的・多角的にとらえ、自分なりの考えや解決していこうとする姿勢を身につける。
社会的事象への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 調査活動や討論、シュミレーションなどの学習活動を展開することにより、経済活動に関する諸課題について、自ら考えようとする態度を育てる
社会的な思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> 統計や図、新聞などさまざまな資料を読み取ったり、収集、選択した資料をもとにわかりやすくまとめ、表現したりする学習を通して、経済的な事象をとらえる見方や考え方の基礎を育てる。 身近で具体的な事例を通して、現実の経済に対する関心を持たせ、さらに個人と社会とのかかわりを客観的にとらえ直し、経済についての見方や考え方の基礎を育てる。
資料活用の技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> 日本の財政のあるべき姿について、自分の考えをわかりやすく表現できる。 新聞記事の中から課題にあった資料を適切に収集、選択し、まとめたり、説明できる。
社会的事象についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 市場経済の基本的な考え方や現代の生産のしくみのあらまし、国や地方公共団体が果たしていることがらについてのあらましを理解させる。 経済が社会生活と密接なかかわりを持ち、人間生活の維持・向上にとって欠かせないものであるといった経済活動の意義を身近な消費生活を通して理解させる。

④ 学習計画（18時間）（本時は16時間目）

学習過程	学習の中心	教師の働きかけと学びのサイクルについて	観 点
私たちの生活と経済（6時間）	ハンバーガーショップの経営者（1時間）	・章の導入として課題学習を行うことで、学習意欲を高め、経済への興味・関心を持つ。（探究）	【関】 【技】
	消費と貯蓄（1時間）	・消費者が商品やサービスを購入する際、おのずと選択の原理がはたらいっていることに気づく。（習得）	【知】 【技】
	消費者の権利と保護（1時間）	・宣伝や広告と日常の消費行動との関係に着目し、消費者主権について関心を持つ。（習得）	【関】
	流通のしくみ（1時間）	・さまざまな商品の流通経路に関心を持ち、流通の仕事について理解する。（習得）	【知】 【技】
	生産のしくみ（2時間）	・企業の目的から資本主義経済の大まかな特徴を理解する。（習得）	【知】

市場経済と金融 (6 時間)	市場経済の仕組み (2 時間)	・ いろいろな資料をもとに商品の価格の決め方を考え、経済についての関心を深める。(探究)	【関】
	市場と価格 (1 時間)	・ 価格がシグナルの役割をしていることを理解する。(習得) ・ 独占価格の影響や公共料金が設けられている理由を考える。(探究)	【知】 【思】 【技】
	金融のはたらき (2 時間)	・ 金融の働きと役割を、金融機関やカードの利用を通して理解する。(習得、探究)	【知】 【技】
	働く人たちの生活向上 (1 時間)	・ 労働条件を改善するために労働組合やさまざまな法律があることについて理解する。(習得)	【知】
国民生活と福祉 (6 時間)	政府の仕事と租税 (1 時間)	・ 社会資本の整備を国や地方公共団体が行っていることに気づき、政府の経済的な役割を考える。(習得)	【思】
	社会保障と国民の福祉 (1 時間)	・ 社会保障の基本的な考え方と日本の社会保障制度の概略を理解する。(習得、探究)	【関】 【知】
	財政のはたらき (2 時間：本時 2 時間目)	・ 歳入、歳出における内容を学習し、財政についての関心を持つ。(習得、探究)	【知】
	公害の防止と環境保全 (1 時間)	・ 公害の発生の原因にはさまざまなものがあることを理解する。(習得)	【知】
	日本経済の課題 (1 時間)	・ 新聞記事などから日本経済にどのような課題があるか気づく。(探究)	【知】

⑤ 本時の目標

- ・ 日本の財政問題に関して自ら考えようとすることができる。
- ・ 日本の財政のあるべき姿について、様々な資料から自分の考えを表現することができる。

⑥ 本時の展開

学 習 活 動	教 師 の 支 援	備 考
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本が抱える借金の金額を考える。 ・ この借金が国債ということを知る。 ・ 日本の財政の歳入と歳出の項目について学習する。 ・ 日本の財政のあり方について、テーマを設定し、各自の予算案を作成する。 ・ 各自の案を交換して、質問事項や疑問点を書き、様々な考えに触れる。 <p>(まとめ)</p> <p>予算のあり方がその国のあり方を示すことを理解し、現在の日本がよりよい国となるには国民が幅広い知識と教養を身につけ、様々な視点からバランスよく考察し適切な考えができるようになることが必要であることを理解し、この時間で発見したこと、疑問に思ったことを感想も交えて書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 興味関心が高まるようにたとえを示す。 ・ 借金の返済が生徒たち自身や将来世代にかかっていることに気付かせ、公民的資質の向上が必要なことを悟らせる。 ・ この作業の目標は、現在及び将来の国家のあり方をバランスよく客観的に考察することが目標であるため、細かく複雑な情報を提示すると混乱するので、簡単に明示するにとどめる。 ・ 生徒が交流する中で、反対意見を出させることによって、様々な物事のとらえ方、考え方があつていくことに気付かせる。 	<p>資料提示</p> <p>ワークシート</p> <p>パワーポイント</p> <p>各自の予算案レポートで評価する。</p>

本時の詳細

導 日本が抱える借金の額は？ 770兆円、純粋国債は540兆円
この借金の名前は？
入 国債770兆円の借金の増加率は—— 1年6兆、1日164億、1h6億8,000万、1m1千万、1s19万
その額を1万円札で積み上げると？ 1兆円で一万m、富士山が3776m、1兆円の高さは、2.6倍、770兆だと、2000倍以上、もはや宇宙空間です。

なぜこんなになったのか？ 政治家が悪いから、無駄遣いが多いから、景気が悪いから、バブルがはじけたから、→資料1【h2からh19の表】ここ12年で380兆増、普通国債547兆【一般会計の10年分】
1人あたり428万、4人家族で1,713万

どうしたらいい？ 政治家の給料減らせ、増税、景気良くする、無駄遣いなくせ、→米国のある州では減税のため、警察官を雇うお金が不足し、警察官の数が足りないという事態になったこともある。

様々な意見交流の後、
君は自分を愛せるか？友人を？その場所を？この学校を？和歌山を？日本を？地球を？

*タックスペイヤーとしての自覚が必要
*まずは国民が賢くなる！！

展 そのような、政府のお金のやり取りを漢字2文字でなんというのか？
開 歳入と歳出を知る【資料2】

国債増加原因【財務省発表】

1. 90'の不景気による税收減
2. 減税処置による税收減
3. 90'の公共事業のための国債増
4. 予想以上の高齢化による社会保障費の増大

従って、政府は消費税の増税を考えている。

チャレンジタイム！財務大臣になって、あなたの予算案を作ってみよう！！

*歳出項目のうち国債費とその他の金額は減らせないと設定し、残りの歳出項目の中で増減を考えるように設定する。その中で、削減した項目については、予算削減が社会に与える影響をあらかじめ提示しておく。（この作業の目標は、現在及び将来の国家のあり方をバランスよく客観的に考察することが目標であるため、細かく複雑な情報を提示すると混乱するので、簡単に明示するにとどめる。）

*歳入についての増減も同様で、増税か現状維持か減税を各自選択することとする。増（減）税の場合、どの項目を増（減）税するかも、生徒に決めさせることとする。

一人がモデルとして財政ゲームをやる中で、システムを説明する。

アメリカ型？スウェーデン型？日本独自型？など紹介して、イメージを膨らませる。

増税か減税か現状維持かを選択する。

日本の財政のあり方について、テーマを設定し、各自の計画案を立てる。

- ・自分の案を班員と交換して、質問事項や疑問点を書く。
- ・2人目のコメントを書く人は、最初のコメントと違うコメントを記入する。→わざと反対の意見を記入することで様々な視点や考え方を知る

・増税派、減税派、現状維持派の代表的な案を発表する。

結果発表

それぞれの予算案に対して、各予算案の結果を発表する。

- ・ **公共事業減**→公共サービスの低下、信号機の廃止、警察官の減少による治安悪化、防災能力の低下、洪水の発生、道路の悪化、図書館・公園など公共施設の閉鎖、都市環境の悪化、ゴミ収集の減少、粗大ゴミ処理の高額化
- ・ **防衛費減**→国際社会から孤立、アメリカから非難、アメリカ軍撤退、東京でテロ、スパイの横行、不審船の襲来、災害救助能力の低下、ミサイル防衛の撤廃
- ・ **社会保障減**→高齢者の生活苦、医療費の自己負担増大、未知のウイルスによる疫病の拡大、公害の発生
- ・ **文教及び科学振興費減**→学校の統廃合、科学技術の低迷による経済低迷、教師の減少・高齢化、次世代スーパーコンピュータの開発失敗
- ・ **地方交付税交付金減**→地方財政の破綻、教師数の減少、県立市立学校施設の老朽化、公務員の減少、地方公共サービスの低下、公共料金の値上げ、ごみ処理料金の高額化、地域格差の広がり、和歌山県は分割して大阪・奈良・三重に吸収合併、州道制の導入

予算のあり方が、その国のあり方を示すことを理解し、現在の日本がよりよい国となるには、国民が幅広い知識と教養を身につけ、様々な視点からバランスよく考察することによって、適切な考えを導くことが必要であることを理解して、1時間の振り返りを記入する。

参考資料 財務省ホームページ <http://www.mof.go.jp/index.htm>

財部誠一オフィシャルホームページ 借金時計 <http://www.takarabe-hrj.co.jp/clock.htm>

国税庁ホームページ <http://www.nta.go.jp/index.htm>

「日本の財政」 林 信光著 東洋経済新報社

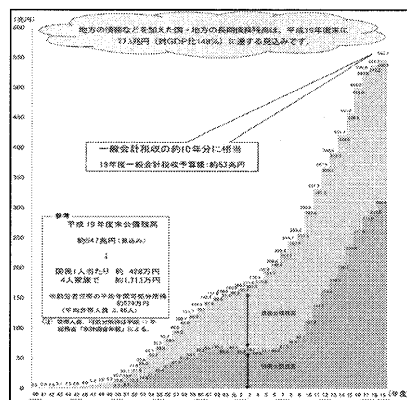
⑦ 結果と考察

本時は財政の状況から、日本国家の現状と将来を考えるという、生徒たちには漠然としたテーマであると同時に、彼ら将来世代が体験する未来の日本を示す非常に身近で切実なテーマでもある。特に、国債残高が増大し、財政状況が社会問題化している現状では、そのあり方によって、彼ら将来世代の生活に直接関わるきわめて重大な問題であることを生徒にしっかりと理解させ、公民的資質を養うことを目標としている。

そこで、本単元では、歳出・歳入の主要項目となる租税や社会保障費などのシステムや現状を先に学習し、様々な問題を浮き彫りにしておいてから、本題の財政の内訳へと結びつけた。このことにより、予備知識を与えておき、それまで学習してきたすべてが、財政の学習で繋がりがあがるものとして総合的に学習することができた。つまり、一見違った面で学習してきた内容が、本時間で密接に繋がった多面体となり、そのすべてが国家的重要課題であると認識させることができたわけである。

その効果は大きく、租税の種類・社会保障の内容・地方の現状・経済問題などを既習の事項と多額の国債費や財政の歴史など、財政という学習時間の中で、新しい知識の獲得と、既習の知識の確認を同時に行ない、さらにそれらすべてを多面的・多角的に捉え、将来の国家予算のあり方を構築する中で、包括的に考えさせることができた。

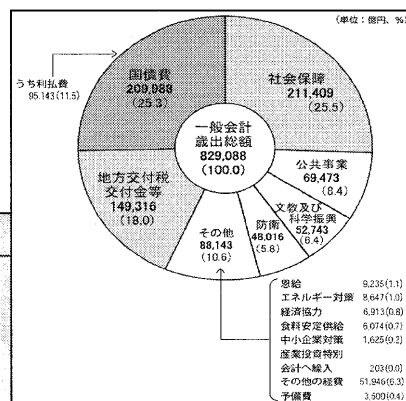
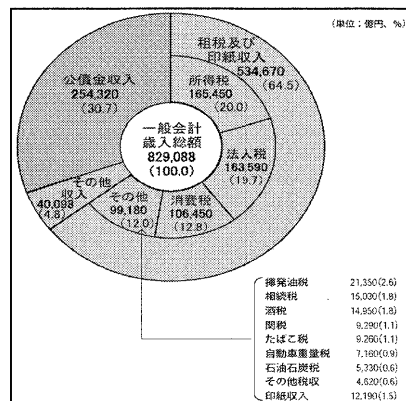
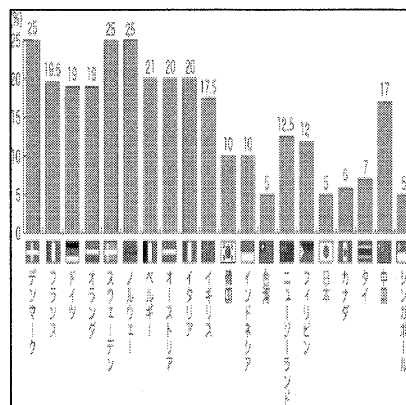
生徒は国家予算を考えることによって、自分たちが納めている税金の使い道を実感すると同時に、その意義を再認識し、タックスペイヤーとして自覚することとなる。また、日本が抱える国家的諸問題を一国民としての視点と、市政者としての視点も持つようになり、現在の自己に集中しがちな中学生の視線を、将来の自己と国家に向けることに



よって公民的資質を養うことができた。

しかしながら、現在国家が抱える問題に明確な解決は見つからず、様々な政治家や学者が研究しているにもかかわらず、経済という人間が為す行為のシナリオは思うように描けず、結果が思うように出せないという状況である。従って、生徒の興味関心が高いほど、膨大となり、複雑化する情報は、かえって中学生を混乱させ、途中で生徒が望む結論を導くことができないこととなった。また、学力が低い生徒は、知識の獲得と、国家的課題という認識までは至るものの、それ以上の広がりを見せることはなく、その難しさに思考をやめてしまう生徒もいた。

実際、財政問題の解決に決定的な方策などなく、国家の中枢が46時中対策を練っているが結果を伴うには膨大な時間がかかると同時に結果が最良である保証もないのが実情である。従って、生徒の作成した財政案も明らかにバランスを欠いたものも含めて、正しい答えがない以上、その指導は難しい。特に生徒は最終的にどうしたらよいのか答えを求める傾向が強いため、学習を終えたときの達成感は充実したものとはなっていないのが、本カリキュラムの最大の課題である。



全体構想 (めざす国家像)

社会保障がゆきとき、高齢者の心配がいらない国、法人税と所得税を上げる。

全体構想 (めざす国家像)

増税して、まずは国民が平等に税を支払い、借金を返済する税金の高い国のように、ぜいたく品などは特に増税をきびしくして社会保障の充実した国にしたい。日本は借金が多いことを意識してほしい。

歳入の部

(消費)税を(25兆)円、(増税、減税)します→消費低迷(収入減)のため増税

(法人所得)税を(15兆)円、(増税、減税)します→増税

公債金(借金)は、(増やす、現状維持、減らす)こととします

計 40兆円、(増やし、減らし)ます。

*消費税は1%につき、2.5兆円増加するとします。

借金を少しでも減らすために、消費税をちょっと多くする。
 など、またなにも (例えば、公園を多く作りすぎないとか) を作らないようにして、
 よかれいをやめて、借金を減らしていく。

歳入の部

(消費) 税を (20兆) 円、(増税、減税) します→ (消費税 8%)
 (所得) 税を (10兆) 円、(増税、減税) します→ ()
 公債金 (借金) は、(増やす、現状維持、減らす) こととします→ ()
 5兆円
 計 25兆 円、(増やし、減らし) ます。

*消費税は 1%につき、2.5
 兆円増加するとします。

歳出の部

(社会保障) 費を (10兆円) 円とします→ ()
 (公共事業) 費を (2兆円) 円とします→ ()
 (国債) 費を (10兆円) 円とします→ ()
 (防衛) 費を (3兆円) 円とします→ ()

友人のコメント (疑問、感想、反対意見)

無駄なものかへて良いと思し、
 そいう所にたくさん金かかるとか、
 借金も大分減ると思います。

by 山本

友人のコメント (疑問、感想、反対意見)

公共事業をそんなにしたら、山などの
 道がぼろで壊れてもって、村がリソ化
 してな気がする...
 でもムダを減らすのがいいと思う

友人のコメント (疑問、感想、反対意見)

振り返り

今回、自分で考えてみて、難しいな〜と思いました。

私がしたのは現実じゃないから良かったけど、現実だったらたいへんなことになっているので、財務大臣は
 すごいと思いました。

今までは、何にも考えずに生活して、日本は借金だらけなのかな〜と思ってたけど、いろいろたいへん
 なことがあったということも知りました。これからもっとニュースとかを見て、財政のことを知ろうと思います。